

Weekly Bulletin 2013-2014



RI会長
ロンD.バートン



ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

静岡東ロータリークラブ

会長/高柳正雄 幹事/高田雅司

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高柳正雄



第 2663 回例会

平成 26 年 4 月 10 日 天候 晴

《司 会》 高田雅司君

《合 唱》 「君が代」「我等の生業」

《BGM》 「雨に唄えば」

《ご来賓》 なし

《ビジター》 渋谷 一君(御殿場 RC)

《本日のお祝い》

お誕生日

4月16日 村松重治君

結婚記念日

4月15日 足羽祐治君

4月17日 山下勝央君

《会長挨拶要旨》



今月は雑誌月間で、今日は雑誌グループによるクラブフォーラムです。ロータリーの雑誌に対する会員の認識を深め、ロータリーの情報の普及を図ることが目的とされています。ロータリーの友の購読はロータリアンの三大義務の一つともされていますので、これを機会にぜひ熟読いただき、新たな何かを発見していただきたいと思います。

さて、多くの企業では新年度に入り、多くのフレッシュマンが新しい環境の中で胸を躍らせているところだと思います。弊社でも、新入社員が研修センターに缶詰めになり、約3週間の特訓を受けております。

私は今の仕事に就いて15年になりますが、そのお陰で、一昨年の時点で47都道府県をすべて訪問するという経験をさせていただきました。北から順番に廻ったわけではありませんが、最後の訪問県は鹿児島でした。

鹿児島に着いたとき、妙な衝動に駆られまして、京からも江戸からも遠く離れたこの地がなぜ明治維新の原動力足りえたのか、モノの本を読めば分かることか

もしれませんが、実地でその断片でも見つけたいと思います、早朝の鹿児島を歩いてみました。

城山の近くまで来ると石垣に銃弾の跡が今も生々しく残っており、西南戦争がついこの前の出来事であったことを実感します。そして島津氏の居城「鶴丸城」跡で足が止まりました。薩摩は公称77万石の雄藩でありながら、いわゆる天守閣など高層建築物がない。名前は城だが館です。それは外様として徳川への遠慮・配慮であったのか、あるいは徳川から強いられた過酷な散財により築城の余裕がなかったのか。静岡にも薩摩堤があります。しかし、それにしても…。

大手門らしき門の前に佇みしばし考えていると、横にある小さな案内板が目に入りました。何か文字が刻まれています。「薩摩は人をもって城となす」。これかっと思いました。短い言葉が強く胸に響きました。

新入社員を迎えるこの季節になると、その意味を噛み締めた言葉の一つとして思い出されます。

《クラブフォーラム》

「ロータリーの友について」
雑誌グループ

杉本幸子リーダー



『ロータリーの友』は1953年1月に創刊されました。その前年、1952年7月、戦後1地区だった日本のロータリーが東西2地区に分割されました。地区が分かれても、それまで一緒に

活動してきた仲間同士、これからもつながってほしいという思いが、当時のロータリアンたちにあったのでしょう。両地区の懸け橋として『ロータリーの友』が誕生しました。『友』は、日本のロータリアンの絆の証なのです。

『ロータリーの友』が創刊するに当たって、色々なことが話し合われ決められました。その一つが、この雑誌をすべて横組みで編集するという事です。

これは全ロータリアンに対するアンケートの結果決まったことです。『友』について決められたのが創刊の前年ですから、当時の状況を考えると、横組みとい

うのはずいぶん画期的なことだったのではないかと推察されます。

どれだけ珍しかったかを証明する一つの手がかりが『友』に残っています。

それは長音、つまり「ロータリー」と書く場合の「ー」の文字ですが、これがすべて上下が逆になっているということです。縦組みに使われている長音を良く観察するとわかるのですが、当時の『友』に使われていた長音は縦組み用のものだったのです。このことから当時の『友』は横組みにもかかわらず縦組み用の活字が使われていたことがわかります。おそらく、横組み用の活字がなかったか、あっても数が少なくて使うことができなかったのだらうと考えられます。

そうして横組みだけで始まった『友』ですが「俳壇・歌壇」など横組みでは入れられないページが登場しそれらを縦組みで入れるようになりました。その後「卓話の泉」、「談話室(現ロータリー・アット・ワーク文章編)」など、少しずつ縦組みで入れる記事が増えてきて、それらを巻末に入れていました。それならと反対側にも表紙をつけたのが、現在の両方が表紙という珍しい雑誌の始まりです。

『ロータリーの友』は、ロータリー地域雑誌に指定されています。そのために従わなければいけない規則が幾つかありますが、その一つが『The Rotarian』から、指定された記事を転載するというもので、それが「RI 指定記事」です。RI 会長や財団管理委員長のメッセージ、毎年8月号に掲載する「ロータリーの基本知識」、11月号、2月号、5月号に掲載している「GLOBAL OUTLOOK」がその代表的な記事です。

外国の記事はあまり興味がないと言われる方も多いようですが、全世界のロータリアンが情報を共有した方がよいと思われる記事が指定されていますのでぜひご一読ください。「自分たちのクラブはどうだろうか」とか「こんな離れた所にも仲間がいる」と思いながら読むと、身近に感じるができるようになるでしょう。

『The Rotarian』編集部は、アメリカ・イリノイ州エバンストンにあるRI 世界本部にあります。この雑誌がRI の機関紙です。ロータリアンは、『The Rotarian』か、指定されたロータリー地域雑誌(日本の場合は、『ロータリーの友』)を購読することが義務付けられています。

雑誌がどのように読まれているか、テーブル毎にディスカッションして頂き以下の提案がありました。

貴重な提案については、編集部の方にフィードバックしておきたいと思えます。

「積極的に投稿することを心がければ、見るきっかけになると思われます」

「注目すべき記事についてアナウンスする」

今後ともよろしくお願いいたします。

《スマイル報告》

村松 重治 君 誕生日のお祝いをありがとうございます。実は家内も同じ誕生日(3才下ですが)なので一緒に歳をとります。

相原 雄治 君 多くの皆様のご理解とご協力により、観桜会をぶじ終了できました。ありがとうございました。

川口 尚宜 君 3月19日より当社の記事が静岡新聞様朝刊に取り上げて頂きました。食べるだけでやせる食事、セントラルキッチン建設、社長の古谷が中部未来懇話会の提言と出ました。村松会員が書いてくれた訳ではありませんが感謝のスマイルを致します。

浅野 裕史 君 結婚記念日のお花ありがとうございます。観桜会楽しみにしていましたが、インフルエンザで1週間倒れてしまいました。桜は来年にとっておきたいと思えます。

加藤 登士樹君 4月3日結婚記念日のお祝のお花ありがとうございます。お礼のスマイルです。日々いろいろな事がありますが、その全てを楽しむ余裕を持ちながら、これからも過ごして行きたいと思えます。

曾根 正弘 君 浅畑川の清掃活動にご参加下さった会員の皆様ありがとうございます。

とくに由利会員の静高建設の皆様鈴木寿人会員のリコージャパン静岡支社の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。

松下 陸朗君 浅畑川清掃活動には多勢の方のご参加を頂き有難うございました。満開の菜の花畑の清掃はとても楽しかったです。終了後頂いた松坂屋まい泉特製弁当はとっても美味しくいただきました。ごちそうさまでした。

中田 盛之 君 誕生日のお祝いありがとうございます。当然のことながら1つ年齢が増えましたが、おかげさまで今のところ元気です。これからもよろしく願い申し上げます。

田村 孝子 君 忘れていた結婚記念日を東ロータリーからのお花のプレゼントで思い出しました。ありがとうございます。心から感謝して。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
4/10	53(50)	41	9	-	-	-
4/13	53()	集計中です	-	-	-	-
3/27	55(53)	42	11	5	6	88.68%